

ヒノキのバードコール

西川材ヒノキの間伐材を使って、バードコール（鳥笛）を作ります。上手く鳴らせば本物の鳥が寄ってくるかも。森の中で鳴らしてみましよう。



対象	実施時期	定員	所要時間
3歳以上	通年	5～80人	1時間半
利用者持ち物	プラザ貸し出し備品		材料
なし	ポスカ・ドリルの刃（7.5mm）・ボール盤・ゴミ入れバケツ		木片・アイボルト・飾りひも

ねらい

- ・想像力や表現力を高める。
- ・西川材の間伐材活用
- ・名栗の自然物を使った思い出の作品を作る。
- ・想像力・表現力を高める。
- ・自然に親しむ。
- ・生活や文化を学ぶ。

打ち合わせ・説明

- ◆開始 15 分前に、当所職員と団体代表者の打ち合わせを行います。
- ◆体験する子ども達、もしくは団体指導者の方に、作業台（丸太イス）を準備していただきます。
※1 作業台につき、1～3 名程度
- ◆その後、全体への説明は当所職員が行います。

以降は、団体進行してください

準備（1 作業台 2～3 人程度）

- ① 作業台（丸太イス）を準備します。
- ② 各自に木片・アイボルトを配布します。
ポスカと飾りひもは全体で使えるように所定の場所にまとめて置いておきます。

実施

- ① 木片を固定し、1～2 cm程度の穴をボール盤で開けます。（穴あけを希望される場合は要相談）
※ボール盤は団体指導者（大人）が扱います。※ボール盤の使用は、当所職員より必ず説明を受けてください。
- ② アイボルトがしっかりと穴に入ることを確認します。※音が鳴る場所までねじ込む。
- ③ 木片がつるつるになるまで紙やすりを使って削ります。
- ④ ポスカで好きな絵や模様や文字を描きます。
- ⑤ 飾りひもをアイボルトの穴に通して結びます。

※当所職員は、団体指導者の方と共に安全管理やアドバイスをさせていただきますが、活動が落ち着いたタイミングで、お声がけさせていただいた上で、事務室へ戻ります。何か不明点などあれば、事務室へお声がけください。

片付け

- ① 道具のか数を数えます。
- ② 道具類は最初にあった場所に戻します。
- ③ 使用した作業台を元あった場所に戻します。
- ④ 下に落ちた木くずやゴミを掃除します。ゴミは当所職員が用意したゴミ入れバケツにまとめてください。
- ⑤ 後片づけは全員で協力して行い、次の団体が気持ちよく活動できるようにしましょう。

※片付けが終了したタイミングで、使用した場所の確認、作成した個数の確認を当所職員が行いますので、事務室へお声がけください。

まとめ

- ・作品披露
- ・ふりかえり

留意点

- ・ボール盤は必ず団体指導者（大人）が扱ってください。
- ・飾りひもは汗などによって色落ちする場合があります。
- ・複数名で鳴らしたり、大きな音で連続的に鳴らすと鳥がストレスを感じるので、気をつけましょう。

SDGs への取組

- ・国産間伐材を使うことで、森の豊かさへの貢献ができます。
- ・自分で作ったクラフトに愛着を持つことで、モノを大切にできる気持ちを育めます。



以降当所職員向け事項

打ち合わせ

◆開始 15 分前に、当所職員と団体代表者の打ち合わせを行う。

- 使用場所について
- 道具の準備、片づけ、点検について
- 安全上の注意について

【ボール盤の取扱・使用方法について】

- ボール盤準備、ドリル刃の取り付けは当所職員が行う。
- ボール盤操作は団体指導者（大人）が行い、操作中は子どもを近づけさせない。
- 木材を万力で固定する。抑えにくい場合板をかませ動かないようにする。
- 操作直後の刃は火傷、巻き込みの恐れがあるため触らない。
- ボール盤操作終了後は速やかに電源を抜く。
- 当所職員の指導（導入）の入り方について
※事前に穴あけをしておけば、1 時間で終了する。

説明

- 動機づけ
- 作り方の説明
- 道具について
- 安全上の注意（上記「留意点」参照）

指導のポイント・展開のアイデア

- 時間に余裕がある場合は鳥の声を聴きに森へ行ってみる。
- でき上がったら楽器として使ってみるのも楽しい。
- 地元の木材「西川材」の間伐材を活用したクラフトである。
- 間伐材による森林活用から、SDGs に話を繋げる。

その他

- * ポスカと細マッキーは、それぞれ6人で1セットの割合、プラスやや多めに出す。また、描けなかったペン用の入れ物を出す。
- * 指導希望団体が重なる場合等、要望に添えない場合や、団体指導者にお願いすることがある。
- * 60人を超える場合は、2班に分けて実施したり、交代で実施する場合もある。
- * 所要時間は、目安である。実施年齢・人数によって変わる。